

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-296587

(P2005-296587A)

(43) 公開日 平成17年10月27日(2005. 10. 27)

(51) Int. Cl.⁷

A61H 23/06

F I

A61H 23/06

テーマコード (参考)

4C074

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2004-147020 (P2004-147020)

(22) 出願日 平成16年4月13日 (2004. 4. 13)

(71) 出願人 504191268

山本 憲司

石川県江沼郡山中町上原町 1 丁目 7 9 番地

1

(72) 発明者 山本 憲司

石川県江沼郡山中町上原町 1 丁目 7 9 番地

1

Fターム(参考) 4C074 AA04 BB05 CC17 DD06 EE04

FF05 GG01

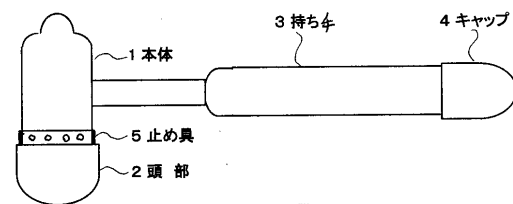
(54) 【発明の名称】 肩たたき用具

(57) 【要約】

【課題】 体に当る部分に細かい粒状の物体を詰めた肩たたき用具を提供する。

【解決手段】 体に当る部分に砂など粒状の物体を詰め、人間の握り拳に近い感覚で叩ける肩たたき用具。

【選択図】 図1



正面図

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

粒状の物体を持ち手の本体に設けた肩たたき用具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、体に当る部分を柔らかくして人間の握り拳で叩いたような感触に近い肩たたき用具に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来から有る肩たたきは体に当る部分が硬く、ボール状の柔らかい物も有ったがそれでもやはり体に当たった瞬間硬さを感じた。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

そのため次のような問題点があった。

(イ) 玉状の体に当る部分が硬いため、肩や腰の骨などに当たった場合痛い思いをする事があった。

本発明は、以上の問題点を解決するためになされたものである。

【課題を解決するための手段】

【0004】

体に当る部分に、砂のような細かい粒状の物体を詰め、全体を柔らかい感触にした肩たたき用具である。

【発明の効果】

【0005】

体に当たった場合、肩や腰の骨部分に当たっても全く痛みを感じず、人間の握りこぶしに近い感触になる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0006】

以下、本発明の実施の形態を説明する。

(イ) 頭部(2)部分に砂など粒状の物体(6)を詰めて、本体(1)に被せ金属の板状の止め具(5)を巻き、ネジ釘で固定したものである。

(ロ) 取り付けた本体(1)の空けた穴に、持ち手(3)を差込み固定する。

(ハ) 持ち手(3)に開けてある穴に、孫の手(5)を収納しキャップ(4)をかぶせる。

翻案は以上のような構造でこれを使用する時は、持ち手(3)の部分のをにぎり頭部(2)で肩などをトントンと叩くようにする。

【実施例】

【0007】

持ち手(3)の部分のをにぎり、頭部(2)で肩などをトントンと叩くようにする。孫の手(7)を使用するときは、持ち手のキャップ(4)を外して内側に納めてある孫の手を取り出して使用する。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図1】 本発明の正面図

【図2】 本発明の斜視図

【図3】 本発明の断面図

【符号の説明】

【0009】

1 本体

10

20

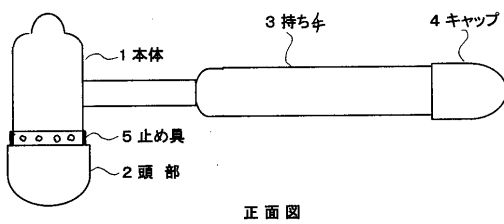
30

40

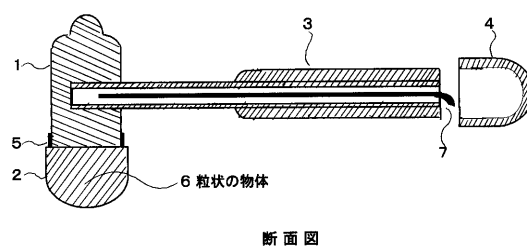
50

- 2 頭部（叩く時体に当る部分）
- 3 持ち手
- 4 持ち手のキャップ
- 5 頭部を本体に被せて止める金具
- 6 粒状の物体
- 7 孫の手

【図 1】



【図 3】



【図 2】

